



教育目標：「豊かな心と創造力にあふれ、たくましく実践する生徒」

# 令和7年度 片貝中学校だより

第10号 (令和8年2月20日発行)

☎ 0258-84-2030

<https://www.city.ojiya.niigata.jp/katachu/>



## 感謝



後期生徒総会の様子

先月後半から今月前半にかけての度重なる寒波の襲来で大雪に悩まされる日が続きましたが、教育活動には大きな影響を出すことなく、生徒たちも元気に学校生活を送ることができました。ようやく寒さも和らぐ気配ですが、インフルエンザ等の感染症の流行の時期でもあります。来月には卒業式や修学旅行など大切な行事を控えています。生徒たちの健康に十分留意しながら教育活動を進めていきたいと思っています。

さて、2週間後に卒業式を迎えます。3年生は自分たちの中学校生活を締めくくり、これまで取り組んできた活動を1・2年生に引継ぐ時期を迎えています。1月19日(月)には生徒会引継ぎ式が行われ、3年生が中心となって行ってきた生徒会活動が1・2年生へと引き継がれました。活動を引き継がれた1・2年生は、新体制での活動のスタートとしてお世話になった3年生に感謝の気持ちを伝える活動を行っています。先日の全校朝会では、「感謝」に関わって次のような話をしました。

感謝の気持ちを伝える言葉に「ありがとう」があります。「ありがとう」の反対語は何でしょう。「ありがとう」は漢字で書くと「有難う」となります。ここには、「あることが難しい、まれである。めったにないことに巡り合う」という意味が含まれます。したがって、「ありがとう」の反対語は「当たり前」となります。このように考えると、私たちの身の回りに起きていることを当たり前と考えているうちはなかなか感謝の気持ちは生まれてきません。日常の何気ない出来事に意識を向け、それが当たり前でなく「有難い」ことと感ずることで感謝の気持ちは生まれてくるのではないのでしょうか。

私たちが3年生と出会い、共に学校生活を送ることができたことは「有難い」こと。このように考え3年生との思い出を振り返ると感謝の気持ちがより深まってくるような気がします。これは、3年生にも後輩たちに対する気持ちとして同じことが言えます。卒業を前にして、感謝の気持ちで校内が包まれるそんな毎日を送っていききたいと思えます。(校長)



